

総合的な利用メニュの充実に係る評価及び見直し等一覧

区分	大別	細別	評価に向けた取組み	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要論点														
総括			登山道の現状把握調査 (1)調査対象 a)大台ヶ原周回歩道(西大台) b)木和野大台ヶ原周回歩道 c)花野大台ヶ原周回歩道 (2)調査結果 a)大台ヶ原周回歩道(西大台) 利用影響：東大台と比較して程度は軽度であるが、既にルートに至る所で利用影響(洗擦、糞尿、雑草化、雑草化、ゴミ、外来種の侵入等)を調査。 b)木和野大台ヶ原周回歩道 利用影響：一歩、崩落等による荒廃があるものの、全体的に利用の影響による登山道や感生の荒廃はみられない。 c)花野大台ヶ原周回歩道 状況：崩落等の荒廃があり、現在は通行止めになっている。 西大台利用調整地区における歩道現況調査 H17-H20(参考資料4-3 p.4) (1)調査対象 西大台地区の周回線歩道 (2)調査項目 a)歩道の洗擦状況 b)歩道の雑草化状況 c)主な滞留箇所における雑草化等の踏み道の状況 d)周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況 ・(オオ)オオコ分布調査※平成17年度のみ実施 ・(その他)自然環境に影響を及ぼす恐れのある課題の確認※平成17年度のみ実施 (3)調査結果 a)歩道の洗擦状況 ・H18年度では9箇所の洗擦箇所が確認され、うち8箇所については洗擦度も確認。 ・H19年度と同様、ナゴヤ谷 手前の斜面とヤマト谷の吊橋の東側の直登区間で大規模な洗擦を確認。 ・洗擦の主な発生原因としては、雨水の流路としての経年変化によるものと考えられる。 b)歩道の雑草化状況 表：H17年度とH18年度の雑草化箇所 <table border="1"> <tr> <th>歩道</th> <th>H17年度</th> <th>H18年度</th> </tr> <tr> <td>運動箇所</td> <td>—</td> <td>22箇所</td> </tr> <tr> <td>滞在回廊箇所</td> <td>—</td> <td>12箇所</td> </tr> <tr> <td>新たな滞留箇所</td> <td>—</td> <td>7箇所</td> </tr> <tr> <td>雑草化箇所</td> <td>34箇所</td> <td>29箇所</td> </tr> </table> c)主な滞留箇所における雑草化等の踏み道の状況 ・H18年度調査ではH17年度と同様、ナゴヤ谷、セツ池、展望台等で大規模な雑草化を確認。 ・裸地の発生原因としては、休憩や昼食時に多くの利用者が滞在する、過剰利用が影響していると考えられる。 ・H19年度では、セツ池や花野付近の利用の影響が大きい部分(南側)と影響が小さい部分(北側)を含む範囲に10m×15mの調査区を設定し、調査を実施。 d)周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況 ・H17、18年度調査で、周回線歩道とドライブウェイが近接する地点などで踏み道を確認。 ・H19年度では、過去に踏み道が確認された6地点に3ラインずつの測定ポイントを設置し、調査を実施。	歩道	H17年度	H18年度	運動箇所	—	22箇所	滞在回廊箇所	—	12箇所	新たな滞留箇所	—	7箇所	雑草化箇所	34箇所	29箇所	・歩道の洗擦、雑草化、裸地化等の歩道の現況について問題箇所が抽出された。 ・また、ゴミの投棄や外来種の侵入などに対する問題も抽出され、今後の計画に寄与する資料が得られた。 ・各ルートの難易度や必要装備についても明らかとなった。	・登山道の整備については管理計画を策定しており、それに基づいた方針が示されているが、利用者の視点に立った登山道の整備については、調査結果やニーズを整理計画にどのよう反映させるか、検討が必要である。 ・歩道の現況について把握ができたが、全てが整備に繋がらなかった。	・登山道の現況調査に関しては、歩道の位置づけに関する資料の調査が必要である。(H17_03) ・滝見尾根へ千石尾根ルートは嵩(岸壁)と滝を跨ぐことができる屈折ルートである。危険箇所があるため現在閉鎖されているが、必要な箇所には子など整備すれば安全に登山できる。西大台において質の高い利用を目指すのであれば、この機会にガイド付きを条件としてルートを復活させてはどうか。(H17_03)
			歩道	H17年度	H18年度																
運動箇所	—	22箇所																			
滞在回廊箇所	—	12箇所																			
新たな滞留箇所	—	7箇所																			
雑草化箇所	34箇所	29箇所																			
①登山道等全体の見直し  (1)基本計画等の策定	H19年度調査より以下の結果が得られた。 <table border="1"> <tr> <th>調査箇所</th> <th>雑草化箇所</th> <th>洗擦箇所</th> <th>滞留箇所</th> <th>調査結果</th> </tr> <tr> <td>運動</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>滞在</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> </table> 雑草化、洗擦に加え、以下の調査結果が得られた。 ・雑草化：1箇所(滞留箇所)を新たに確認。 ・歩道外に立入りが見られた箇所：6箇所(6箇所)で歩道外の立入りを新たに確認。	調査箇所	雑草化箇所	洗擦箇所	滞留箇所	調査結果	運動	29	23	1	4	滞在	9	6	2	0	・継続的な調査により、滞留箇所や原因、回復状況などが明らかになりつつある。 ・他の計画と連動して検討を進めていく必要がある。	・西大台の歩道は、従来、あまり確認整備をしないという方針で来た。その結果、利用調整地区の対家地区になり得たわけで、今後、雑草化や路肩の崩落といったものは直す必要があると思うが、歩道そのものを直すというよりは、絶対にしてはならないと思う。(H19_01) ・歩道の整備については、快適性基準ではなく、安全性基準、自然発生性の観点で整備方針を整理すべきである。(H19_01)			
調査箇所	雑草化箇所	洗擦箇所	滞留箇所	調査結果																	
運動	29	23	1	4																	
滞在	9	6	2	0																	

※ 上欄地点中の「(H19\_01)」は、平成25年度第1期利用調整計画までの委員の発言を示す。

区分	大別	種別	評価に向けた取組のまとめ	進捗度	課題	第1期計画の検証	第2期計画に向けた主要論点
1 登山道・自然観察路の充実	(1) 調査等の基本計画 (2) 整備の実施	③ 登山道の見直し	③ 周回歩道道の解説標識の検討 H18-H19(参考資料4-3 p.6) ・H14、15年度に整備基本計画、サイン基本計画を策定し、H18年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に改修を実施。 ・H19年度では、自然共生解説標識の再整備計画を行った。 H18-H19(参考資料4-3 p.6) ・H14、15年度に奈良県民主体により策定された整備基本計画、サイン基本計画および「大台ヶ原地区サイン計画協議会」での検討内容を踏まえ、H18年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に改修を実施。 ④ 周回歩道道の解説標識の改修 H18-H19(参考資料4-3 p.6) ・H14、15年度に奈良県民主体により策定された整備基本計画、サイン基本計画および「大台ヶ原地区サイン計画協議会」での検討内容を踏まえ、H18年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に改修を実施。	・整備基本計画、サイン基本計画を策定した。 ・H18年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に9タイプの解説標識の改修を実施した。 ・利用者に对各種アンケート結果から、西大台の解説整備の拡充を要する意見がある。 ・一部改修を実施できた。	・アンケート結果から、西大台の解説整備の拡充を要する意見がある。 ・利用者に对各種アンケート結果から、西大台の解説整備の拡充を要する意見が抽出されている。 ・後場大台ヶ原歩道が復旧していない。	・整備基本計画、サイン基本計画を策定した。 ・一部改修を実施できた。	・秋など登攀で道がわからなくなるときのきななど西大台解説者でも道を誤る可能性があるため、最低限の解説整備は行うべきである。
			③ シンポジウムの開催 H17(参考資料4-3 p.8) 【大台ヶ原と世界遺産大峯奥駈道の利用を考えるシンポジウム】 日時：平成17年9月24日(土) 12:30～15:30 場所：奈良県歴史文化会館 小ホール 対象：登山利用者、自然保護団体、公共交通機関、関係機関等 【登山道の整備のあり方】 ・自然環境の状況を把握し、利用者層、環境の状況、自然体験の質を合わせてメリハリをつけるべき。 ・荒廃の速度を抑える再生に向けての取り組みが必要。 ・動植物、地形などの自然資源のほかに「地域の人」という文化資源も重要である。 ・地元の方を含め、幅広い主体が関わる中で登山道の維持管理を支えるシステムが必要。	・公開シンポジウムにおいて登山道の整備方針について意見交換を行った。	・多様な出席者と意見交換することができた。		
2 キャンプ指定地の設置	(1) 候補地の検討・選定	③ 候補地の現状把握	キャンプ指定地の調査 H17(参考資料4-3 p.9) (1) 対象地の条件 ・法規制：県国施設地区内で候補地を抽出する ・地形・造成を必要としない平坦もしくは緩傾斜地とする ・下層植生・雑草もしくは大台ヶ原に広く分布するミヤコザサ上とする ・既存施設利用：既存のトイレを利用できる場所を優先的に候補地を確保 ・管理効果：管理上の効率を踏まえ駐車場の近い候補地を優先 (2) 候補地 a. 旧野営場周辺 b. 旧トイレ周辺 c. 旧ピジターセンター一角 d. 現駐車場 e. 大台ヶ原売店西側林内 f. シンカラ谷登山道入口周辺 g. 山の家の広場 h. 大台ヶ原の家敷地	・H17年度に指定地の条件整備を実施した。 ・H17年度に8箇所の候補地が選定と各候補地のメトリック・デメリット等を抽出した。	・キャンプ指定地の設置のため以下の課題整理が必要がある。 ・指定地の条件整理 ・需要の推計 ・関係者、地元住民との合意形成	・キャンプ指定地の検討については、8つの候補地があげられているが、要・不要の両極の意見が出され、結論が得られていない。	・コアの部分において、キャンプ指定地を設置することには本能的に反対。もつと下の力で、影響が少ないところを探す。(H17_01) ・自然再生を推進していくうえで、悪影響を与えないキャンプのあり方を検討していく必要がある。(H17_01) ・大台の自然をより深く体験するためのひとつの手段として、ささやかな指定地を考えるべき。(H17_01) ・キャンプ指定地については、登山利用のあり方と必要性、予測される自然環境への影響等について検討できる資料を整理すること。(H17_01) ・キャンプ指定地は、キャンプの教育的意義が豊富な原生的自然と肌で触れ合うところにあることを求めているべきである。(サイト選定後)は当面最大5張りで充分と考える。キャンプ利用を求むる声が実態としてあるので、今後継続して検討すべき。(H17_03) ・自然再生推進計画に位置づけられているキャンプ指定地の設置についても、継続的に取り組みを進めるべきである。(H18_02)

※ 評価結果の「(2)」は、平成17年度第1回説明会資料での委員の発言を示す。

区分	大別	種別	評価に向けた取り組み	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要論点
3	山上駐車場の周辺の活用	(1) 諸条件の把握	<p>地域文化体験イベント、大台ヶ原の自然を知るイベントの検討 H16(参考資料4-3 p.12)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化体験イベント</li> <li>地域文化遺産の観光や観光上の調理体験、木工品の制作体験など、地域文化とふれあふ地域への理解を深めるイベントの開催。</li> <li>大台ヶ原の自然を知るイベント</li> <li>自然解説や写真展など大台ヶ原の自然への理解を深めるイベントの開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイカー規制の社会実験と連携したメニューを検討した。山上駐車場の周辺の活用に関する議論はほとんど行なわれていない。</li> <li>マイカー規制の社会実験との連携したイベントを検討したが、社会実験を実施していないため、実現には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メニューは検討したものの、山上駐車場の周辺の活用に関する議論はほとんど行なわれていない。</li> <li>マイカー規制の社会実験との連携したイベントを検討したが、社会実験を実施していないため、実現には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メニューは検討したものの、山上駐車場の周辺の活用に関する議論はほとんど行なわれていない。</li> <li>マイカー規制の社会実験との連携したイベントを検討したが、社会実験を実施していないため、実現には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自然解説、自然体験プログラムの充実」は、自然体験プログラムに関する取組とガイド制度に関する取組の大きく2つの項目からなり、どちらも検討と実行を繰り返しながら着実に成果を積み上げてきているといえる。</li> <li>「自然解説、自然体験プログラムの充実」は、自然体験プログラムに関する取組とガイド制度に関する取組の大きく2つの項目からなり、どちらも検討と実行を繰り返しながら着実に成果を積み上げてきているといえる。</li> </ul>
		(2) メニュー、プログラム	<p>大台ヶ原の利用の現状と課題 H16(参考資料4-3 p.13)</p> <p>H16年度に、環境省が主体となって実施している自然観察会の現状を把握し、自然体験プログラムの実施に向けた課題整理を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H16年度の自然観察会：8日間開催</li> <li>H16年度のパークボランティア研修会：4日間開催</li> </ul> <p>H16年のアンケートでは、40%程度の利用者が、自然観察会への参加を希望。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省が主体となった実施している自然観察会の現状を把握すること、自然体験プログラムの実施及び充実に向けた基礎的情報の収集および課題を抽出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省が主体となった実施している自然観察会の現状を把握すること、自然体験プログラムの実施及び充実に向けた基礎的情報の収集および課題を抽出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自然解説、自然体験プログラムの充実」は、自然体験プログラムに関する取組とガイド制度に関する取組の大きく2つの項目からなり、どちらも検討と実行を繰り返しながら着実に成果を積み上げてきているといえる。</li> <li>「自然解説、自然体験プログラムの充実」は、自然体験プログラムに関する取組とガイド制度に関する取組の大きく2つの項目からなり、どちらも検討と実行を繰り返しながら着実に成果を積み上げてきているといえる。</li> </ul>	
4	自然解説、自然体験プログラムの充実	(1) 基礎条件の把握	<p>他地区の事例調査 H16年度に自然体験プログラムの導入に向けた検討のため、6地区の事例調査を実施。</p> <p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やまぼうし自然学校(長野県菅平高原他)</li> <li>ホーアルーム自然学校(静岡県富士山他)</li> <li>大形谷自然学校(三重県宮川村大台ヶ原他)</li> <li>尾瀬山の森ビジターセンター(ビジターセンター周辺)</li> <li>屋敷沼ビジターセンター(ビジターセンター周辺)</li> <li>白神山地のグリーンツーリズム(青森県勝ヶ沢町)</li> </ul> <p>自然体験プログラム等に関する意向調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験プログラムの実施及び充実にあたり、必要となる、プログラムの運営方法や料金設定、スタッフの配置などの具体的な事例を抽出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H16年度以降、調査が実施されていないため、社会的ニーズを反映したプログラムが把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有料プログラムの運営方法や料金設定、スタッフの配置あり方などの具体的事例が抽出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有料プログラムの運営方法や料金設定、スタッフの配置あり方などの具体的事例が抽出された。</li> </ul>
		(2) プログラムの検討(自然体験プログラム)	<p>H16年度に自然体験プログラムを基盤として、利用者の意向を調査した。回答数は360票</p> <p>(1)参加したい自然体験プログラム(複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの回答者が参加したい意向を示したものは、「ガイド付き自然観察会」、「夜の観察会」、「日の出を見る会」であり、それぞれ約30〜40%</li> <li>半数以上の人が、2〜3種類の自然体験プログラムに対して参加を希望。</li> </ul> <p>(2)短期イベントの日程(複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊者よりも日帰りの希望が多い。</li> <li>1泊2日の日程では「土曜日出発・1泊2日」の希望が比較的多い。</li> </ul> <p>(3)「自然体験プログラム」を希望する人が全体の60%を超える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自然体験プログラム」は、年齢が低いほど希望が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加したい自然体験プログラムとして、「ガイド付き自然観察会」や「夜の観察会」「日の出を見る会」など、夜間や早朝のプログラムへのニーズが高いことも明らかとなった。</li> <li>宿泊型のものよりも日帰りで参加できるプログラムの希望が多いことが明らかとなった。</li> <li>宿泊を伴う場合は、山頂の宿泊施設を希望する人が半数以上を占める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加したい自然体験プログラムとして、「ガイド付き自然観察会」や「夜の観察会」「日の出を見る会」など、夜間や早朝のプログラムへのニーズが高いことも明らかとなった。</li> <li>宿泊型のものよりも日帰りで参加できるプログラムの希望が多いことが明らかとなった。</li> <li>宿泊を伴う場合は、山頂の宿泊施設を希望する人が半数以上を占める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加したい自然体験プログラムとして、「ガイド付き自然観察会」や「夜の観察会」「日の出を見る会」など、夜間や早朝のプログラムへのニーズが高いことも明らかとなった。</li> <li>宿泊型のものよりも日帰りで参加できるプログラムの希望が多いことが明らかとなった。</li> <li>宿泊を伴う場合は、山頂の宿泊施設を希望する人が半数以上を占める。</li> </ul>	

※ 玉峰山頂の「H16\_01」は、平成29年度第1期利用対策計画での委員の意見を示す。

区分	大別	細別	評価に向けた取組のまとめ	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要論点	
4 自然保護 自然体験プログラムの充実	(1) 基礎条件の把握	② プログラムの検討 (ガイド)	<p>ガイド制度等に関する先進事例の整理</p> <p>H18(参考資料 4-3 p.17)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用の質を高めるためのホール・仕組みづくり、ガイド制導入などを行っている先進的事例を整理し、利用の改善を計るための仕組みづくりとその課題について抽出した。</li> </ul> <p>全国で展開するガイド養成・資格制度の実施事例の整理</p> <p>H18-H19(参考資料 4-3 p.20)</p> <p>全国のガイド講習プログラムの実施事例(10 事例)を収集し整理。</p> <p>【主な特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域の自然、文化、歴史、民俗等に関する幅広い知識を提供。</li> <li>・座学だけでなく、フィールドでの実技を含む。</li> <li>・各分野の専門家を講師として招き、2～3 日の集中講義として実施。</li> <li>・ガイドとしての責任、安全管理技術、保険等に関する講義を含む。</li> </ul> <p>西大台利用調整地区利用者を対象としたガイドに対する意向調査</p> <p>H18-H19(参考資料 4-3 p.23)</p> <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) H18 年度(回収数 110) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドを利用したことがある人は、全体の 10% であり、大半の人は、ガイドの利用経験がなかった。</li> <li>・大台ヶ原でガイドを利用するとした場合の希望については、「自然」として基本的な情報をしてくれる初心者向けのガイド」を希望する人が 37.3%と最も多く、次に「自然についてより専門的な解説をしてもらえる中・上級者向けのガイド」が 27.3%となった。</li> <li>・ガイドを利用するとした場合の、支払ってもよい料金(利用者一人当たり)については、2,400 円以内が最も多く、45.5%、次に 2,000 ～3,000 円が 18.2%となり、3,000 円以上払ってもよいという人は少なかった。</li> </ul> </li> <li>(2) H19 年度(回収数 348) <ul style="list-style-type: none"> <li>・H19 年度に実施した西大台利用調整地区利用者を対象としたアンケート調査の結果からは、コース所要時間や目的までの距離等ベータ配分の助言となる情報を求める意見、動植物等のより詳しい解説を求める意見、速いやすいことに対する対応策を求める意見が多くみられた。</li> </ul> </li> </ul> <p>(注) 大台ヶ原におけるガイド需要について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行社等の団体ツアーにおける専門ガイドの同行は、15%程度であり、その割合は少ない。</li> <li>・上北山村及び地域のガイド団体へのガイド活動は活発。</li> <li>・より良い自然体験を享受するための手法として、大台ヶ原におけるガイドツアーへの関心、期待は高い。</li> <li>・案内標識や解説標識等の整備を求める意見が利用者から寄せられているが、西大台地区においては、積極的な施設整備は行われない保全方針となっているため、施設整備ではなく、ガイド制度の導入による対応が有効であると推測できる。</li> </ul>	<p>資格認定制と資格登録制の 2 タイプのガイド制度を抽出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地への立入ルールの際のガイド同行の義務化や、利用人数・ルート・期間に制限を設けるなどの制度を設けている事例を抽出した。</li> </ul> <p>ガイドの養成及び資格制度について必要とされる事項を抽出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習内容としては、自然解説や調査手法、自然学校の運営についてまで幅広い受講プログラムが展開されていることが明らかとなった。</li> </ul> <p>旅行社等の団体ツアーにおける専門ガイドの同行は、15%程度であり、その割合は少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・案内標識や解説標識等の整備を求める意見が利用者から寄せられているが、西大台地区においては、積極的な施設整備は行われない保全方針となっているため、施設整備ではなく、ガイド制度の導入による対応が有効であると推測できる。</li> <li>・「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」を希望する人が 37.3%と最も多かった。</li> </ul>	<p>ガイド制度等の導入のためにさまざまな調査、検討が実施されているが、実現に至っていない。</p>	<p>ガイド制度の資格等について詳細な条件整理を行い、導入に向けた具体的な条件を整理して実施する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド制度の認定に関しては、条例を制定し、公認ガイド制度をつくることを視野に入れた検討が必要である。(H17_06)</li> </ul>	<p>ガイド制度の養成及び資格制度について事例を抽出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の事例収集を進め、大台ヶ原へ適用する際に参考となる点を整理すること。(H18_01)</li> </ul>	<p>ガイド制度を議論するための基礎的な情報が把握できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用形態として、ガイドを付けるべき。(H17_02)</li> </ul>
			<p>③ 自然体験プログラムの実施</p> <p>H18-H19(参考資料 4-3 p.25)</p> <p>大台ヶ原周辺で活動する地域住民が主体となったガイド等の実施調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 上北山村による自然体験イベント <ul style="list-style-type: none"> <li>・H17 年度：2 日間実施</li> <li>・H18 年度：7 日間実施(うち 1 泊 2 日のイベント 2 回)</li> <li>・H19 年度：3 日間実施</li> </ul> </li> <li>(2) 大台ヶ原周辺地域のガイドクラブ <ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎ガイドクラブ(北山いこら)</li> <li>・川上村「山の学校」(まっちゃんくらぶ)</li> </ul> </li> </ul>	<p>大台ヶ原周辺では、上北山村による自然体験イベントや地域住民が主体となった「山崎ガイド北山いこら」等によるガイドが活発に行われていることが明らかとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西大台利用調整地区の運用開始にともない、西大台におけるガイドの活動回数も減少したが明らかになった。</li> <li>※運用前 15 人(1 運用後 1 日)</li> </ul>	<p>現在、大台ヶ原でガイドを行っている団体だけでなく、広域で実施している団体の状況も把握できていない。</p>	<p>大台ヶ原周辺の地域住民によるガイド等の活動実績が明らかとなった。</p>		

※ 主要施設からの H18-H19 年、H18 年度、平成 29 年度、H19 年度利用調整地区での実施の調査を示す。

区分	大別	細別	評価に向けた取り組みと実績	達成度	課題	第3期計画の評価	第3期計画に向けた主要論点												
4	自然解説・自然体験プログラムの充実	(3) その他の実施項目  (自然体験プログラム)	<p>①自然体験プログラムの開催とアンケートの実施 H17-H20(参考資料4-3 p.26)</p> <p>(イ)自然体験プログラムの開催</p> <table border="1"> <caption>表：H17～H20年度までの自然体験プログラム</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>内容</th> <th>開催日時</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17年度</td> <td>①自然観察会 ②アトレックツアー ③秋の大台ヶ原 ④秋の空鳥観察 ⑤東大台地区 ⑥西大台地区</td> <td>10/9(日) 12:00～15:30 10/19(日) 19:30～21:00 10/10(祝) 11:00～13:00 10/15(日) 11:30～15:30 10/22(日) 11:30～15:30 10/29(日) 11:30～15:30</td> <td>33名 13名 27名 3名 8名</td> </tr> <tr> <td>H18年度</td> <td>①自然観察会(大台ヶ原の3区間) ②自然観察会(自然再生区間)について</td> <td>10/27(土) 10:30～13:30 10/25(土)～10/26(日) 11/10(日)～11/11(日)</td> <td>1名 9名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(ロ)アンケート結果からみた各プログラムの成果 H17、18、19、20年度に開催した自然体験プログラムで、プログラム終了後にアンケート調査を実施した。各回とも概ね満足度は高く、H17年度は、一般の方にも著名な千石瓦生を起用し、参加者の好評を得た。H18年度は、悪天候のため参加者は少なかったものの、大台ヶ原の自然再生に関心が深い層の参加であったため、より専門的で内容の充実したプログラムとなった。 H20年度は、麓の村と連携した新たな取組としてエコツアーを実施し、村の方の尽力により、参加者には非常に高評価を得た。</p> <p>満足度 H17年度：5段階評価で平均値3.3～3.7であった。 H20年度：全体を通してみると、「とても満足」が54.5%、「満足」が45.5%であった(5段階評価)。 今後の参加の意向 H20年度：「ぜひ参加したい」27.3%、「都合がつけば参加したい」54.5%、「参加したくない」0.0%、「非回答」18.2%であった。</p> <p>②アクティブレンジャーによる自然観察会の開催とアンケートの実施 H18-H20(参考資料4-3 p.28) H17年度よりアクティブレンジャーによる自然観察会を継続的に実施している。H17年度については、報告書に記載がないため、18、19年度の開催概要を以下に示す。 (イ)H18年度 ・開催日時：5～10月のほぼ毎週水曜日、1日2回、計16日32回(悪天候や参加者不在等により中止となった日を含む) ・参加者総数：63人 (ロ)H19年度 ・開催日時：5～10月、ほぼ毎週水曜日、1日3回、計12日36回(悪天候や参加者不在等により中止となった日を含む) ・参加者総数：95人 (三)H20年度 ・開催日時：6～11月の土曜日、1日2回、計11日22回(悪天候や参加者不在等により中止となった日を含む) ・参加者総数：117名 (四)H18、19、20年度のアンケートの結果 a)参加者の属性(性別、年齢) ・H18年度は50、60代の割合が高かったが、最近は親子連れが増加。 b)自然観察会を知ったきっかけ ・「当日のアナウンス」が過半数を占める。情報提供の充実が必要。 c)満足度 ・「とても楽しい」、「楽しい」が合わせて9割以上を占め、各年とも高評価を得ている。</p>	年度	内容	開催日時	参加者数	H17年度	①自然観察会 ②アトレックツアー ③秋の大台ヶ原 ④秋の空鳥観察 ⑤東大台地区 ⑥西大台地区	10/9(日) 12:00～15:30 10/19(日) 19:30～21:00 10/10(祝) 11:00～13:00 10/15(日) 11:30～15:30 10/22(日) 11:30～15:30 10/29(日) 11:30～15:30	33名 13名 27名 3名 8名	H18年度	①自然観察会(大台ヶ原の3区間) ②自然観察会(自然再生区間)について	10/27(土) 10:30～13:30 10/25(土)～10/26(日) 11/10(日)～11/11(日)	1名 9名	<p>・H17年度より継続的に自然体験プログラムを実施している。 ・アンケート調査より、自然体験プログラムの内容は、概ね満足いくものとなったことが明らかとなった。</p>	<p>・各回、参加者の満足度のいくものが実施できているものの、AR自然観察会やPV自然観察会との差別化を図った特色ある企画を継続的に実行していくことが重要といえる。 ・参加者数が少なかった時期もあり、周知方法を検討する必要がある。</p>	<p>・アンケート調査より、自然体験プログラムの内容は、参加者に概ね満足いくものとなっていることが明らかとなった。 ・参加者数が少なかった時期もあり、周知方法を検討する必要がある。</p>	<p>・自然体験プログラムは継続していくことが重要であり、今後は、より充実したプログラム内容や効果的な情報提供・発信の方法について検討すべきである。(H18_02) ・自然体験プログラムを検討する際に、まず地域の方々(特に子供たち)を対象にした試行的なプログラムを実施し、アンケートにより参加者の意見や要望等を把握した上で、本格的なプログラムを検討するという方法も考えられるのではないかと、 (H18_02) ・自然体験プログラムには、もっと市民参加型の内容を盛り込むとともに、上北山村、川上村とも連携して、進めいく必要がある。(H19_03) ・自然体験プログラムについては、内容を充実させるとともに、年間スケジュールを早急に作成して、各関係機関に配布するなど、広報を強化する必要がある。(H19_03)</p>
年度	内容	開催日時	参加者数																
H17年度	①自然観察会 ②アトレックツアー ③秋の大台ヶ原 ④秋の空鳥観察 ⑤東大台地区 ⑥西大台地区	10/9(日) 12:00～15:30 10/19(日) 19:30～21:00 10/10(祝) 11:00～13:00 10/15(日) 11:30～15:30 10/22(日) 11:30～15:30 10/29(日) 11:30～15:30	33名 13名 27名 3名 8名																
H18年度	①自然観察会(大台ヶ原の3区間) ②自然観察会(自然再生区間)について	10/27(土) 10:30～13:30 10/25(土)～10/26(日) 11/10(日)～11/11(日)	1名 9名																

※ 自然解説中の「H18\_02」は、平成29年度「自然観察会」の委員の報告書です。

区分	大別	細別	評価に方向けられた取り組み	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要論点																							
4 自然解説・自然体験プログラムの充実	(3) その他の実施項目	(自然体験プログラム)	<p>③パークボランティアによる自然観察会の開催とアンケートの実施  H19-H20(参考資料4-3 p.31)</p> <p>(1) パークボランティアによる自然観察会の開催  H19年度に計4回、H20年度に計9回実施。</p> <p>広報について：  ・近畿地方環境事務所：IPによる広報  ・吉野自然保護管理事務所：奈良県、京都府、大阪府庁記者クラブ、きんぎょ環境館メールマガジン、ならリビング、奈良新聞(奈良新聞関係列)、道の駅、大台荘などの観光施設</p> <p>表：プログラム概要 (H19年度)</p> <table border="1" data-bbox="367 1489 478 1926"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>コース</th> <th>開催時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2日コース</td> <td>(定員)</td> <td>10:30～15:30</td> </tr> <tr> <td>1日コース</td> <td>(定員)</td> <td>09:30～11:50</td> </tr> <tr> <td>1日コース</td> <td>(定員)</td> <td>13:30～14:30</td> </tr> </tbody> </table> <p>表：アンケート概要 (H20年度)</p> <table border="1" data-bbox="486 1444 718 1926"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/28(日)</td> <td>初夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>7/20(日)</td> <td>夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>8/10(日)</td> <td>夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>9/21(日)</td> <td>初秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施</td> </tr> <tr> <td>10/18(日)</td> <td>秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) アンケートの実施 (H19年度)  【結果】(回答数25)：  a) 参加者の属性(性別、年齢)  ・性別は、男性が44.0%、女性が56.0%  ・年齢は、30代が最も多く32.0%を占め、次いで、50代、60代がそれぞれ20.0%  c) 交通手段  ・25名全員が自家用車であった。  d) 自然観察会を知ったきっかけ  ・当日のアナウンスが最も多く、64.0%を占め、次いで、ビジターセンターが20.0%と多かった。  e) 自由意見  ・初めて来たので、このようなガイドがあって、たいへん助かった。(3件)  ・トイレが無いのが困った。  ・自然の大迫りを学ぶことができた。(5件)  ・当日でも気軽に参加できたのがよかった。</p> <p>④大台ヶ原ガイド研修会(インテナーブリエーション講習会)  H17(参考資料4-3 p.33)</p> <p>継続的な自然体験プログラムの実施に向け、人材育成プログラムを実施。(1)開催概要  ・日時：H17年9月21日(水) 9:45～16:15  ・場所：ビジターセンター、吉野公園  ・対象：PV、川上行、上北山村自然観察ガイド希望者、観光関連事業者  ・講師：松井浩(奈良教育大学教授)、大西かおり(大杉自然学校校長)、岩木泉治(NPO森と人のネットワーク理事長)  ・受講者：24名(一般22名、ビジターセンター職員2名)  (1)内容  ・自然体験活動の理念及び指針について  ・大台ヶ原の森林生態系について  ・自然解説の実地学習</p>	コース	コース	開催時期	2日コース	(定員)	10:30～15:30	1日コース	(定員)	09:30～11:50	1日コース	(定員)	13:30～14:30	日付	内容	6/28(日)	初夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施	7/20(日)	夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施	8/10(日)	夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施	9/21(日)	初秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施	10/18(日)	秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施	<p>・パークボランティアによる自然観察会の評価としては、「大変良い」という意見が多く、「大変分りやすい」との意見も多く、好評であることが明らかとなった。</p>	<p>・パークボランティアによる自然観察会の評価としては、好評であることが明らかとなった。</p>	<p>・現状の自然観察会の参加者数等をみると、低い水準に留まっているように思われる。ガイド制度に活用していくことも踏まえ、観察会のプログラムを充実させ、常に更新していく必要がある。(H19_03)</p>
コース	コース	開催時期																												
2日コース	(定員)	10:30～15:30																												
1日コース	(定員)	09:30～11:50																												
1日コース	(定員)	13:30～14:30																												
日付	内容																													
6/28(日)	初夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施																													
7/20(日)	夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施																													
8/10(日)	夏の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施																													
9/21(日)	初秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施																													
10/18(日)	秋の大台ヶ原自然観察会 参加者アンケート実施																													

※ 自然観察会の開催状況は、平成20年度以降、国土環境省の委託を受けた、吉野自然保護管理事務所にて調査されている。

区分	大別	細別	評価に向けた取組のまとめ	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要ポイント
4	自然解説・自然体験プログラムの充実	(3) その他の実施項目	⑨「ガイド研修会（インターブリーディング講習会）」参加者を対象としたアンケート HI7(参考資料4-3 p.33) ガイド研修会終了後、参加者にアンケート調査を実施。 【結果】(回答数24) a) 居住地 奈良県(17名)、大塚町(6名)、兵庫県(6名)、京都府(1名) b) 来阪の交通手段 自家用車(23名)、無記入(1名) ⇒研修会開始時刻が、バス到着時刻よりも早く設定されていた。 c) 満足度 ・満足度の評価を7段階で示したところ、5〜7が大半で、平均値は5.6であった。 d) 満足した点(7つの選択肢より複数回答) ・講師の説明が分かりやすかった(19/24) ・参加人数が適正であった(11/24) ・実地研修をすることができた(10/24) ・ガイドの重要性を知ることができた(10/24) e) 改善すべき点(自由記述) ・実地研修をもっと長く(4件) ・研修の目的を明確に(2件) ・大台ヶ原の歴史にも触れる(1件) ・開始時間が早すぎる(1件) f) ガイドとして参加したいプログラム(11の選択肢より複数回答) ・西大台ヶ原のガイドハイキング(14/24) ・胡木の観察会(12/24) ・紅葉時期など季節に応じた自然観察会(11/24) g) 意見・感想(自由記述) ・次回も参加したい(11件)・改善・工夫すべき点(5件) ・研修会の目的、位置づけが不明(3件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大台ヶ原におけるガイド制度導入にあたって、人材育成が重要な課題となっていることから、ガイド研修会の効果を高めるアンケート調査は有効なものと評価できる。</li> <li>ガイド研修会の満足度としては概ね高い評価が得られた。</li> <li>講師の説明が分かりやすく、次回も参加したいとの意向が明らかとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然解説のスキル向上のための研修会としては、講師の説明も分かりやすく、次回も参加したいとの意向を得て、参加者の満足度も高かった。</li> <li>研修会の内容としては、実地研修を長くすることや、目的・位置づけを明確にすること等が求められた。</li> <li>次回の開催に有益となる取組にはなっていないかった。</li> </ul>		
			総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページやパンフレット等による情報発信により、大台ヶ原の自然や歴史、楽しみ方や、自然再生推進計画等に関する普及啓発を実施した。情報は随時更新し内容も充実し、利用者にとって有用な情報を提供することができた。</li> <li>ホームページにはアクセス方法だけでなく、コースガイド、帰りのバスの時刻まで山頂における時間の使い方に関する情報を記載するとよい。(HI7_01)</li> </ul>			
5	情報提供・情報発信の充実	(2) 情報発信の充実	ホームページによる情報発信 HI6-H20(参考資料4-3 p.35) (i) ホームページの更新 ・HI6年度より「大台ヶ原自然再生推進ホームページ」を開設。 ・随時、各種委員会情報や自然体験プログラムなどの各種イベント情報、奈良交通バスダイヤ改正情報などを更新。 ・HI7年度：11回更新 ・HI8年度：10回更新(トップページは随時更新) (ii) メールマガジンの配信 ・H20年1月現在で、341と、創刊号配信時(H17年9月)の登録者数25、H19年1月時点での登録者数219 ・内容としては、イベント情報や自然再生への取組み状況、公共交通利用促進等の呼びかけ等を中心に配信。 ホームページのアクセス状況 HI7-H19(参考資料4-3 p.37) (i) PC用サイトのアクセス状況 ・H18年とH19年を比較すると、H19年の総訪問者数(89,322人)は前年(32,560人)との比で121%増加。 (ii) モバイル用サイトのアクセス状況 ・H17年8月〜H19年12月の29ヶ月間におけるモバイルサイトの総訪問者数は1,879人、また総訪問数は5,402回、閲覧ページ総数7,893ページ。 ・H19年は、春にもリアルタイム情報の提供を行っていることから、10、11月だけでなく、4、5月にもアクセス数の増加。 ・コンテンツカテゴリ別では、「トップページ」及び「大台ヶ原へのアクセス」へのアクセス数が最も多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベント情報や公共交通利用促進等の呼びかけなども積極的に発信している。</li> <li>メールマガジンの登録数も増加傾向にあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用目的に合わせたコンテンツの充実が必要である。</li> <li>メールマガジンについては、現在、一時中断している。</li> <li>…一方でインターネットによる情報発信は利用者が限定される可能性も示唆される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページによる情報発信は積極的に行われたといえるが、メールマガジンの発行が一時中断するなど、課題もある。</li> <li>ホームページにはアクセス方法だけでなく、コースガイド、帰りのバスの時刻まで山頂における時間の使い方に関する情報を記載するとよい。(HI7_01)</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した調査により、人気コンテンツや今後発信、充実が必要とされる情報などが明らかになった。</li> <li>また、来訪集中時期などの予想にも参考となる情報が抽出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した調査により、人気コンテンツや今後発信、充実が必要とされる情報などが明らかになった。</li> <li>また、来訪集中時期などの予想にも参考となる情報が抽出された。</li> </ul>			

※ 主要拠点中の「(四)01」は、平成29年度第1回印刷部部会での集約の番号を示す。

区分	大別	細別	評価に向けた取組まとめ	達成度	課題	第1期計画に向けた情報発信の評価	第2期計画に向けた主要論点
5.	情報提供・情報発信の充実	③ その他の実施項目	<p>その他の情報発信</p> <p>H20(参考資料4-3 p.38)</p> <p>平成20年度に福原市昆虫館等で以下の冊子が開催され、大台ヶ原に関する情報発信が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「大台ヶ原の自然」(福原市昆虫館主催)</li> <li>期間：平成20年3月11日(火)～5月18日(日)</li> <li>場所：福原市昆虫館</li> </ul> <p>【関連行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・むしムシゼミな～る「大台ヶ原の自然」</li> <li>日時：平成20年3月23日(日) 13:30～15:30</li> <li>場所：福原市昆虫館</li> <li>・大台ヶ原の自然～春の東大台を動ねて</li> <li>日時：平成20年5月10日(土)、5月17日(土)</li> <li>場所：福原市昆虫館～大台ヶ原(東大台周遊)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大台ヶ原原野</li> <li>上記、福原市昆虫館主催の「大台ヶ原の自然」が終了後、奈良県内外で巡回展を開催。</li> <li>巡回展：きんぎょ探検隊→ビクターセンター→京都御苑→上北山村(文化屋)→(以下、予定)大阪市立自然史博物館→森と水の源流館→生涯学会</li> <li>・子どもパークレンジャー</li> <li>平成20年度は、探検隊AR、森と水の源流館、福原市昆虫館との協働で、構内のオササギや樹木を計測する事で、防護柵の意義を科学的に認識するプログラムを実施。</li> <li>・大阪市立自然史博物館の展示室のリニューアルにおいて、一部、大台で開催された知見を活用</li> <li>・大台自然体感ウォーク(上北山村主催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体と連携した情報発信が行なわれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然再生事業の中で得られた成果を有効活用する必要がある。</li> <li>・大台ヶ原に関する取組の情報を継続的に発信し、集積する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体と連携した情報発信が行なわれた。</li> <li>・今後とも周辺地域を含めた各種団体と連携した情報発信を充実していくことが重要といえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用調整地区や公共交通利用促進との関係において、山の上上がる前に意識の向上を図る取組について考える必要がある。(H17.09)</li> <li>・普及啓蒙としては、平成20年3月から8ヶ月程度、福原市昆虫館等において、大台ヶ原の昆虫テーマとしたイベントを開催する予定である。(H18.02)</li> <li>・自然再生事業の中で得られた成果を有効活用する必要がある。</li> </ul>
			<p>①ビクターセンターの活動把握</p> <p>H16(参考資料4-3 p.39)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・S40年(旧)大台ヶ原ビクターセンター開設、1992年に現在の大台ヶ原ビクターセンターにリニューアル。</li> <li>(旧)スタッフ構成</li> <li>・原職員3名が勤務、H16年から臨時職員として課長からボランテアコーディネーター2名が派遣。</li> <li>(旧)活動内容</li> <li>・職員は主な活動内容は、登山指導、気象情報、自然情報(開花、紅葉など)の問い合わせの対応、展示品の更新。</li> </ul> <p>②ビクターセンター展示の改修</p> <p>H18(参考資料4-3 p.40)</p> <p>(1)改修履歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・S40年(旧)大台ヶ原ビクターセンター開設、1992年に現在の大台ヶ原ビクターセンターにリニューアル。</li> <li>・H18年度には、既設展示物の更新と自然再生に向けた取組みを紹介する新規展示物の整備が実施。</li> <li>(旧)H18年度改修内容</li> <li>【既設展示物の更新】</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説カウンターのパネルの更新</li> <li>・ビデオライブラリーの再構成</li> </ul> <li>【新規展示物の整備】</li> <li>利用動線および既存の展示物に配慮し、現状の空きスペースに自然再生がイメージ的(自然再生の流れを過去～現在～未来という観点で)に楽しく理解できるように展示物の整備を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビクターセンターの充実及び展示改修にあたっての基礎情報を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既設展示物の更新及び新規展示物の整備を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度にビクターセンターの展示の改修を行ない、ふれあいコーデイナーの配置も行った。</li> <li>・こうした取組により、利用者に対してきめ細やかな情報提供を行うことが出来るようになり、ビクターセンターの機能が充実した。</li> <li>・ビクターセンターの充実及び展示改修にあたっての基礎情報が得られた。</li> <li>・利用者のニーズに対応できるよう、組織構成を含めて充実を図っていく必要がある。</li> </ul>	
6.	ビクターセンター機能の充実	①	<p>(1)改修履歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・S40年(旧)大台ヶ原ビクターセンター開設、1992年に現在の大台ヶ原ビクターセンターにリニューアル。</li> <li>・H18年度には、既設展示物の更新と自然再生に向けた取組みを紹介する新規展示物の整備が実施。</li> <li>(旧)H18年度改修内容</li> <li>【既設展示物の更新】</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説カウンターのパネルの更新</li> <li>・ビデオライブラリーの再構成</li> </ul> <li>【新規展示物の整備】</li> <li>利用動線および既存の展示物に配慮し、現状の空きスペースに自然再生がイメージ的(自然再生の流れを過去～現在～未来という観点で)に楽しく理解できるように展示物の整備を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の改修後の効果を検証していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年度に展示の改修が実施されてから、ビクターセンターの活動効果が実証されていないため、改修効果を見るために調査を実施し、ニーズに対応した充実を検討していく必要があることを示唆する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビクターセンターにある検禁用のパソコンの内訳があまり変わっていないため、利用者が自分で調べて学べるように、内容を充実させていきたい。(H18.01)</li> </ul>	
			<p>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の改修後の効果を検証していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年度に展示の改修が実施されてから、ビクターセンターの活動効果が実証されていないため、改修効果を見るために調査を実施し、ニーズに対応した充実を検討していく必要があることを示唆する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年度に展示の改修が実施されてから、ビクターセンターの活動効果が実証されていないため、改修効果を見るために調査を実施し、ニーズに対応した充実を検討していく必要があることを示唆する。</li> </ul>	

※ 主要論点中の「H18.01」は、平成20年度福原市昆虫館での委員の発言を記す。



区分	大別	細別	課題	達成度	課題	第1期計画の評価	第2期計画に向けた主要ポイント
6. 1 デジタルセンター 機能の充実	(2) その他の実施		<p>動植物に関する教材資料の作成</p> <p>HI8(参考資料4-3 p.40) 自然再生関連調査で得られた成果等を活用しビジュアルセンターでの閲覧および自然観察会等で使用できる「大台ヶ原動植物教材資料」の作成について検討した。</p>	<p>検討結果に基づき、自然観察会等で活用できる「大台ヶ原動植物教材資料」を作成した。</p>	<p>事前レクチャチャート(HI9 西p.17-21)より、冊子に関する不満意見が抽出されているため、この資料の活用を検討する必要がある。</p>	<p>各種アンケート結果等からの意見をもとに内容の充実を図っていくことを示唆する。</p>	<p>大台ヶ原の魅力伝えるガイドブックなどが書店に並ぶことは、効果的な普及啓蒙の方法のひとつとして期待できる。(HI8.02)</p> <p>ガイドブックについては、大台ヶ原の自然、文化、歴史、利用マナー等をひとつにまとめたものが望ましく、地域の方々々と協力するとともに、先進事例なども参考にして、今後検討していく必要がある。(HI8.02)</p>

※ 主要施設中の「HI9」は、平成20年度第1回特別委員会での委員の報告を示す。